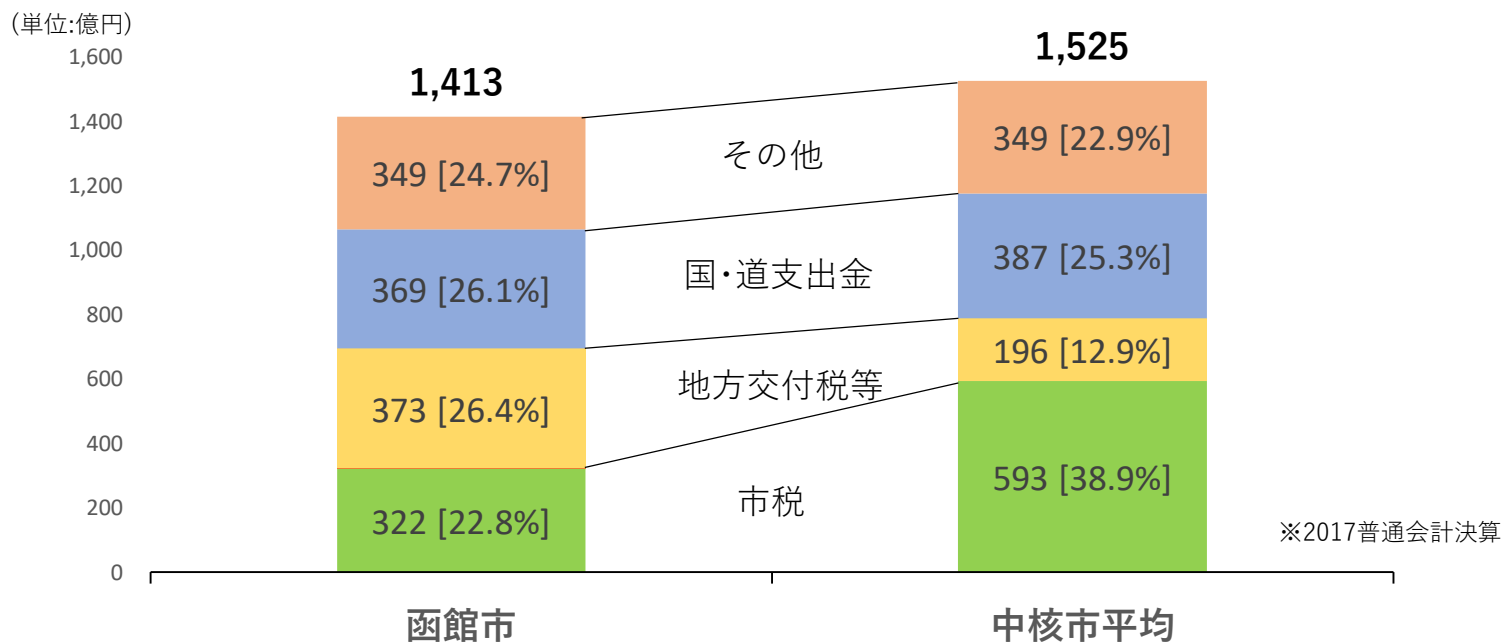


# 函館市の財政状況について

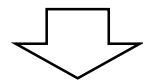
第 1 回検討委員会資料  
令和元年 7 月 22 日（月）

# 1 函館市の財政状況について

## (1) 歳入の状況



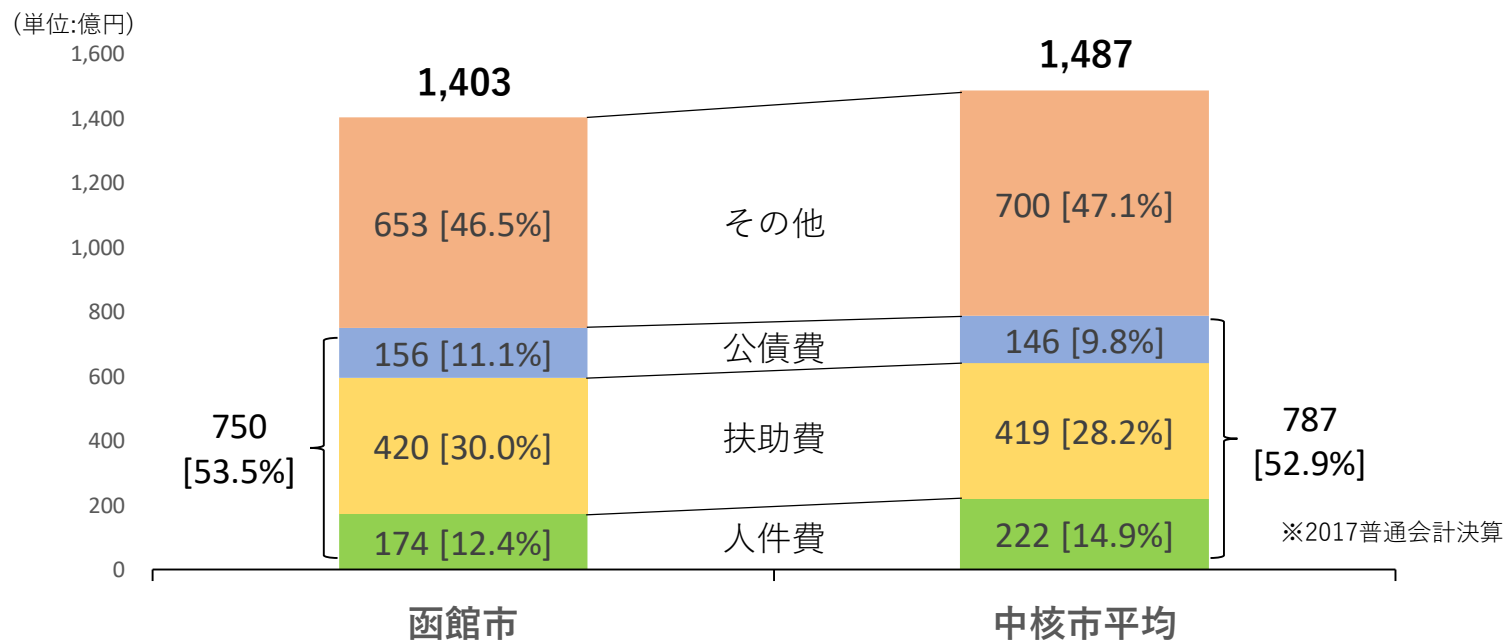
自主的かつ安定的な財源としての市税が少なく、国の制度に左右される国道支出金や地方交付税等に依存



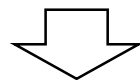
**脆弱な体質**

# 1 函館市の財政状況について

## (2) 歳出の状況



人件費，扶助費，公債費のいわゆる義務的経費の占める割合が高く，様々な市民ニーズに対応するための経費の割合が少ない



**硬直した体質**

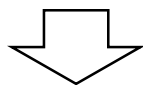
## 2 歳出のうち観光費の状況

### (1) 観光予算の他都市との比較

※観光入込み客数は、中核市市長会都市要覧の2017年数値  
 ※観光費決算・予算額は、人件費を除く中核市54市のうち回答のあった46市平均  
 ※小樽市の各数値は小樽市HPより

区分 [参考:観光入込み客数]	函館市 [524.7万人]	中核市平均	(参考)				
			旭川市 [535.7万人]	八戸市 [664.8万人]	金沢市 [1,022.1万人]	小樽市 [806.2万人]	
人口 (2015国勢調査)	265,979人	381,715人	339,605人	231,257人	465,699人	121,924人	
観光費 (2017決算額)	405,441千円	487,035千円	190,324千円	337,434千円	666,270千円	143,366千円	
1,000人あたり決算額	1,524千円	1,276千円	560千円	1,459千円	1,431千円	1,176千円	
参考	観光費 (2019当初予算額)	519,368千円	562,565千円	248,604千円	282,184千円	708,929千円	134,605千円
	1,000人あたり予算額	1,953千円	1,474千円	732千円	1,220千円	1,522千円	1,104千円

- 他都市と比較し、多額の経費を観光行政費に投入している状況
- 加えて、「景観まちづくり」や「航空路線・クルーズ船誘致」などの観光費以外の取り組みを行い、交流人口の拡大を図ってきたところ

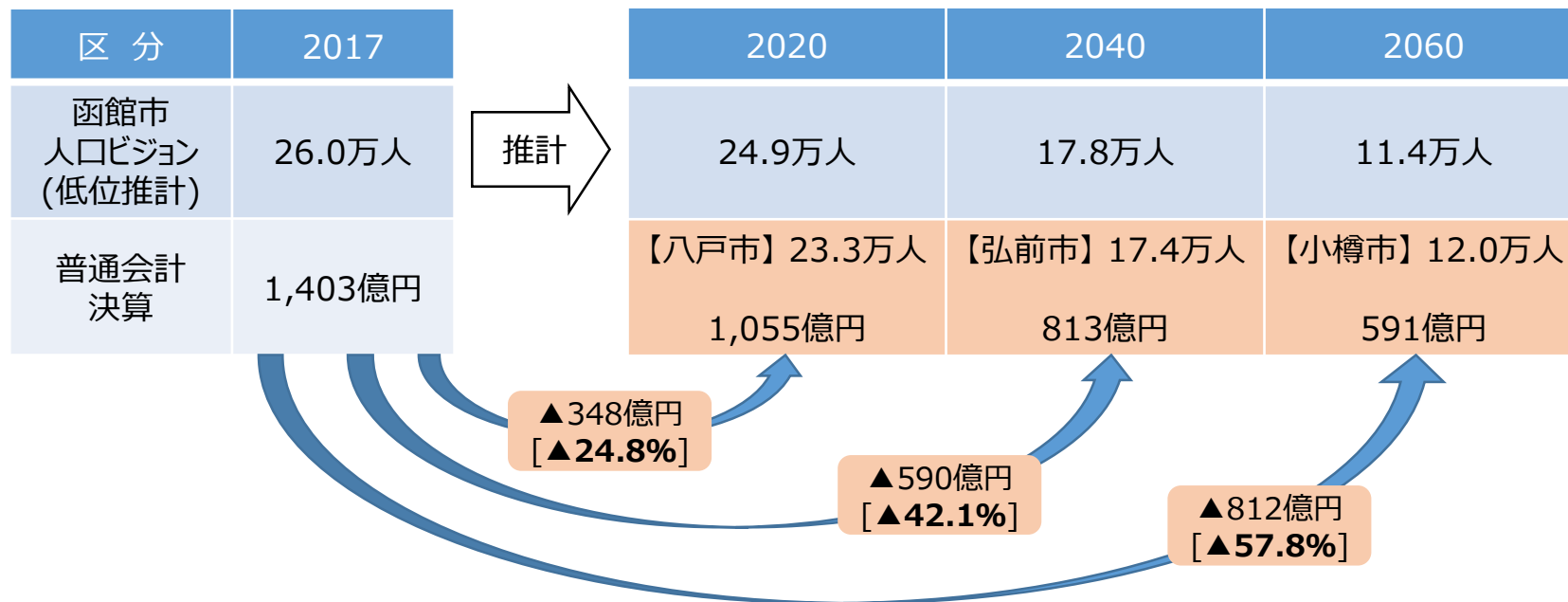


観光施策に多額の経費を投入している

### 3 将来的な人口減少と財政規模

#### (1) 函館市の人口推計と類似団体の財政規模

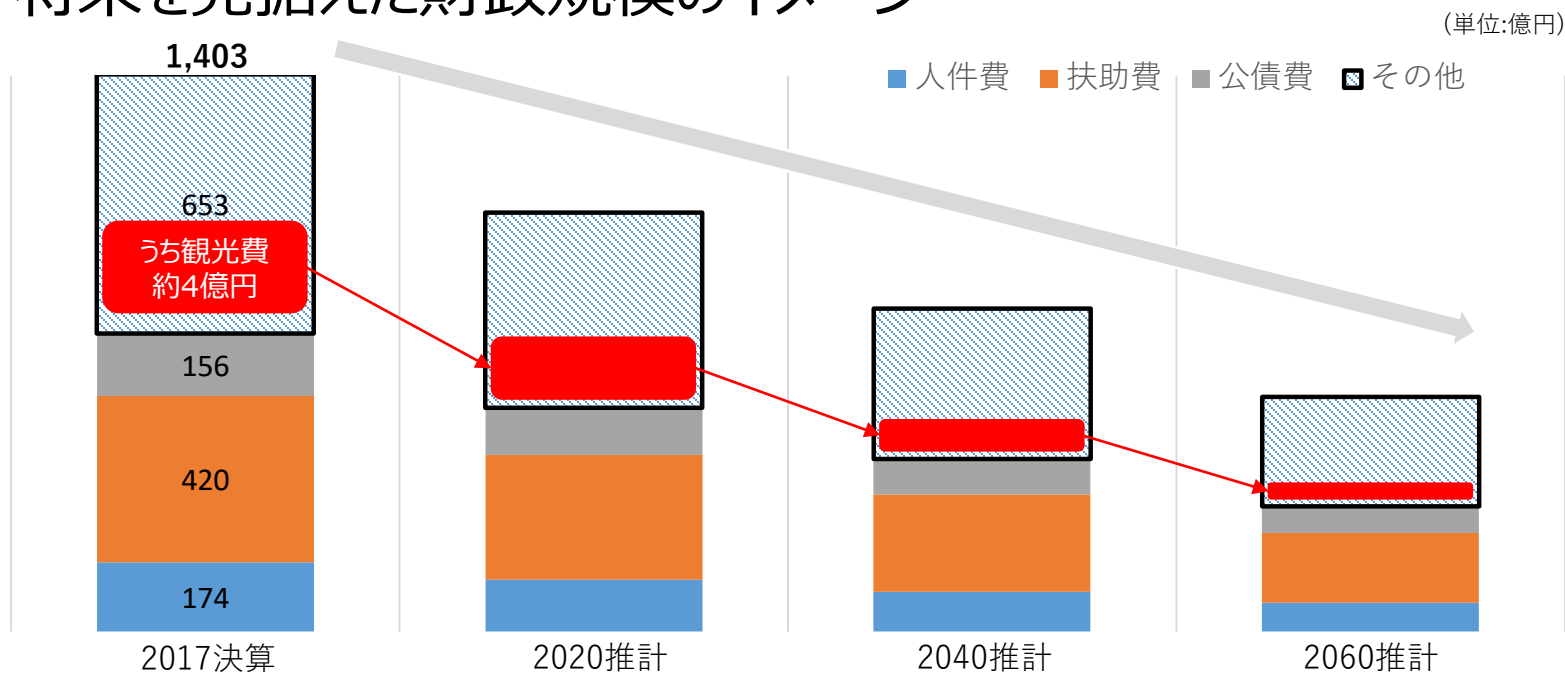
※類似団体の人口は2017年度末住基、財政規模は2016普通会計決算数値



- 2040年には人口20万人を割り、2060年には11万人台になることが予測される
- 推計される将来人口と同規模の類似団体の財政規模を比較すると、人口減少に伴い、**約2～6割の財政規模の縮小**が想定される

### 3 将来的な人口減少と財政規模

#### (2) 将来を見据えた財政規模のイメージ



財政規模の縮小に伴い、観光行政費も縮小せざるを得ない

- ・インバウンドの急増に伴い、受入体制の整備を進める必要がある
- ・交流人口をさらに拡大し、地域経済の活性化を図る
- ・本市にとっては、観光行政費を確保し、観光施策を充実させることは必須

**観光施策の展開に必要な安定的な自主財源の確保が必要**